

郵便

明治六年第一月



新聞

新貨三錢

第廿五號



東京横山町三丁目

太田金右衛門



特

門 48  
407  
18

九例

遠近の人民互に性情よく相通し、事なきは古遠す。東洋域の如く  
 奇一故に西洋諸國苟も文明の名あり、地とてたれども新聞紙局は  
 ありて國內國外と論ぜ、凡百の事務を細羅し、併ぎて奇事異域  
 活衆族を采用し、以て日不別し、日不別して傳布を存し、幾人の  
 諭し、戸が、小説は概あれ、國人善くこれを便し、世に今、其の  
 此新聞を刊行するも、廣く遠近の多、其の或る大なる、内、其の  
 古今は變と知り、以て世を禪蓋せ、其の如く、其の如く、其の如く、  
 氷成見て天下は寒を知り、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、  
 斑を癩と云

郵便報知新聞第卅五號 明治六年第一月

○一月三日 歌御會初

御製

年たをそのはふよいやを直ふれとさう代乃道城おも  
ひまはるる

大宮御製

立ちへふ年此光をたけし日と道所を御代乃國なること  
かト

中宮御製

辰口所開 萬世に



○濱松縣管内より日蓮宗の僧林漸院と云へる者諸人より  
狐を付め其狐を落して之を祈禱の験ありとて金銀  
以貪りたるおその事發覺して召捕せしことり

或云凡そ狐狸乃人を誑惑せざる其入自と其際ある  
小依り故は昔より才識學問あるとせる斯る怪事  
ある事哉聞らば然る小一寺の僧として罪なき愚民  
を欺き況んや狐狸乃術を假り己れの靈験を示さん  
ともなる實甚しき者なり

○岩手縣より報知

同縣下北上川を其幅百間餘ありて水勢急激るをば尋

常乃橋を架し難し故より古より大なる鐵鎖を以て三十  
餘隻の船を連絡し上下木板を鋪き往來の便と成然れ  
とも動もされば出水の害ありて行人乃妨げ常より少  
らば此弊害を除くんとて從來橋料米とて下民より取  
立置たる殘穀を基とるゝ令參事以下小吏に至る迄多  
少の金と醵し并に普く有志の輩募り金穀成論せむ  
各自乃調度お任す一夫橋を架せるの設け向り也  
○印旛縣下下総國松戸宿人力車夫初五郎るるとは同  
管内岩富村に長檀谷久左門を雇いれり時誤り同人  
を車より落し自分と手乃大指を打折り一々其節更し

怪我せしとは六とむして約束の場所まで送り届け  
しとて右の往來稼の者も似氣なき奇特の事として近里  
乃者共感しけり然るも右久左工門も己れを落せし過  
とら問ふて何れも可喜の美談なり  
一端ふして何れも可喜の美談なり

○水原武禮評論

貴社新聞世二號附録に記載せる小野氏の論説と評  
は西洋各州まで僅二十有餘の文字成りて明に通  
まき文章成り本邦も亦四十有餘の文字あり固  
より以て文成り是れ然りと雖も我國西洋と一

まべりしきなる西洋に於てハ字に傍に「コンマ」の小點  
を置き又る「カピタル」乃頭字と用ひ或る冠詞三生乃區  
別と為し文法綿密なる故ふたとへど橋は河に架し著  
る物と食する器なる事は知る吾邦未だ其制あり今  
あゝ小新聞紙として小野氏の説乃如く悉くこれを平  
假名とせむはしとはしとる何れも弁せん往昔家康公  
乃前小一句を奉る者あり公は松平號しして信玄ハ武  
田躰るり故に松と竹とふ以して大に信玄成稱せし哥  
と聞く「マツカレテタケタクヒナキコトシカナ」と詠せ  
し流石公の敏才其歌へ濁點して「マツカレデタ

ケダクビナキユトシカナとありて返一玉ひいと取り  
 右乃類も少らねば丸一假名のて成用也る時必  
 ろは粗語を生ぜん且小野氏乃説るひとり婦女子  
 著目して幼童ふ心なきが如く幼童ハ今一り萬里外  
 歴して學と研き才成廣むる成要たるふ却て漢書益  
 考きを成とせば恐くる自狭くとすは近か  
 欽寧る漢文を法りひ交せて其傍ふ平假名を附と老  
 婦女子をして普く文字成知しむるふ如ん貴社乃説  
 如何とあるやよろしく看官の賢評を得て此論の當否  
 成弁解し給せんあは成望む

○郵便莖氣船十里凡本月九日午後十二時根州神戸港  
 より東京へ向け出帆せし翌十日午後一時頃根州大  
 島より俄に暴風吹起り難波ふ及び一處船中一同の冬  
 かねて漸く凌ぎ翌日午前六時頃豆洲下田港へ着航せ  
 しが怪我人并荷物流失等無之より追々郵船乃運轉  
 も斯く習練ふ至りこれハ内國の人民次第ふ運送の便  
 利を得る事なりん

○府下柳橋藝妓お幾あるを此嘗て情客ふ接し一人乃  
 男子成設け今年僅く十歳なりしが頃日共立舎小入學  
 せしめたるふ天然の戈質をの母譲とせして頗る洋

辰戸所開 第廿五

書成諸誦せりやぞ抑々る婦人こゝにて輕薄場中お生  
活をゆるす所謂佳人の薄命おとん然るも年來其業の賤  
しき故恥ぢ早く開化お着眼し其子をして一生自主の  
権理を保し一人とせざる由至るを蓋し天あれお男兒  
を與へて彼乃薄命を償ふに似たり奇談と云ふべし

○濱松縣管下見附取柴田敬齋より報知

近來西洋より老利紀と云藥品成船載せり此品曾て和  
産をいと云然るも予偶遠州引佐郡氣賀村乃農山崎惣  
十郎の家を訪ひ話次此樹乃形質を具し語りしうば主  
人忽ち一枝を折來る實し老利紀樹なり村中頗る大樹

所々おありされど何地にも必あるべきを色とも世間  
具眼の人又遇えず空しく樵夫採薪の料と形る嘆惜乃  
至りあり依て人々注意あり度なり此也畧畧木の如し



○小田縣より報知

同縣下玉島の住林元三郎なる者の目論見を以て貸附金  
乃會社を建てて去年七月初旬より官許乃上其社を関け

り凡入社を乞ふ者る金百円を一株と定め一株毎小證  
券一枚と渡すの法ふして此券一枚は付一々年利足金  
九円六十銭なり田畑山林地所家作等質入の規則は時  
乃相場六七歩通り此見込を以二ヶ月限り乃約定あり  
且諸運送の荷物等る夫々金為替の法方も備えまり其  
初め管内十七郡中入社の人二千餘人をり一ヶ分る社  
入の金高殆百万円ふ及び既に本社の外五ヶ所の分社  
を開き日毎盛大に及びり詳細の規則方法を印行し  
會社規則及制限等の書あり其建則立法甚と嚴整ふし  
て且親切あり是れ所謂国立銀行乃法あり

○日額田縣より報知管下布令

僧侶に無之身分ふして大峯山大先建杯唱へ護摩焚火  
祭等致し御嶽講と申祈禱のこし人心を迷し小者有之  
我し付各區戸長に於て篤と取調可申出若し隠し置後  
日致露頭ハハ嚴敷處置ふ及ぶべき事

○群馬縣管下沼田文次郎より報知

同縣下上州甘樂郡富岡町へ御建築あり製絲場の儀  
る去る庚午閏十月始て地所御見分りて翌辛未五月  
中より御普請御取掛り昨を申秋迄悉く御成功相成  
即今御雇外國人も勉強して追々皇國工女も日々諸國



より來着す其操系乃上品るる勿論熟練し至てる一人よりて齒一斗餘舛と製るる不至れり

○三渚縣より報知管下山本郡木塚村農田中庄三郎妻を束同縣下三渚郡矢加部村農新谷為次郎妻と其兩名とも眞實の御賞與として金二円五十錢ツ、縣廳より下賜りたり

○前號へ記載せし府下各區番人の儀当廿五日より第一大區犬番人小頭を置き昼夜見廻り相始め是迄の選卒中より三人ツ、御人撰ふて巡查被仰付し由なり  
報知新聞第卅五號 終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣ハ遠く隔る國々ハ物信と互にお通じりぬ且  
府下小生亦細大を以て各々各地におありしを依りて後ハ及申善行の  
賞譽暴徒捕縛機械産物の新産品藍織織物漆器陶器米穀桑糸其他の  
諸品製造耕作の多寡豊凶震雷風雨水火の災難寒暖季候の違ひを以て少  
し之異りたるを以て夫レハ筆記して新文體虚飾を去りて時日記載して是を記  
し發見人及び賣弘所を送り紙一拾りて予地希し  
一郵便報知新聞一冊價料貨三錢毎月五号宛五冊  
當時發見号より先キ廿冊分引換他二冊引  
同四十冊分一割半引

一、年分引換の價二割引  
本通割合を定前金郵便報知新聞

東京横山町三丁目  
太田金右衛門

